

2020 年度事業報告書

2020 年 8 月 1 日から 2021 年 7 月 31 日まで

■ 第 15 期(2020 年度)のポイント

「新型コロナウイルス感染症とどのように付き合っていくか」を考え、行動し続ける 1 年となった。当設立以来取り組み続けている「意欲する人が集う場づくり」は、感染症対策に伴い「対面の場の制限」に対して、どのように向き合っていくのか。また、緊急事態宣言など感染収束に向けた取り組みを進めることが、一方で、同調圧力を生んだり、声の大きい人に引っ張られることで、子どもや在住外国人をはじめとした「声をあげにくい人」がますます潜在化し、“マイノリティ”が孤立状態に向かっているのではないだろうか、と「声を聴く」ことの意義を問い直した 1 年でもあった。

オンラインというツールが一般化した現在、基盤としてのオンライン環境整備や技術支援を通して、新たな場づくりの可能性に挑戦することができた一方で、「リアルの場の意義」も改めて感じることができた。不安やリスクを丁寧に読み解き、参加者が安心して参加できる場づくりのためには、私たちが長年大切にしてきた「対話」をベースにしたリスクコミュニケーションにあると考えている。コロナをきっかけに活動を休止し、再開・解散を含めて今後のあり方に悩んでいる団体も多くあり、NPO 支援団体として丁寧に関わっていきたい。

三田まちの寺子屋「まなびあ」や地域日本語教室「北神日本語教室」、Taro's kitchen やフードシェアリング企画など、会員・ボランティアが中心となって取り組んでいる事業が、創意工夫ある展開となっていることが実感された。「子どもの声を聴くためのハンドブック～新型コロナウイルス そのとき「現場」はどう動いたか」を作成し、先駆的な実践と意思を発信できたことで、私たちが目指したい当事者支援のあり方を社会に伝えることができるのではないかと考えている。

また、私たちの取り組みに共感してくださる方や、各種プロジェクトに関わってくださるボランティアさんも、少しずつ確実に増えている。いくつかの助成金に採択いただき、新しいプロジェクトを側面的に支援していただくことができた。参加者・対象者の「NPO は社会参加の器である」という視点のもと、参加者一人ひとりを大切に、多様な参加と役割のある出合いの場づくりを通して、「小さな事起こし」がまちの中にたくさん生まれるよう、これからも取り組んでいきたい。

■ 特定非営利活動に係る事業の実施について

1. 市民活動や運営に関する相談事業（収益 '19 : 1,935 千円、'20 : 1,598 千円）

市民活動に関する幅広い相談支援を実施。ひょうごボランティア基金の助成を受け、相談料は半額の 1 回 1,000 円(初回無料)としている。

1.1. 市民活動団体・法人設立支援

市民活動団体や NPO 法人設立を希望する団体を支援。主に、申請書類作成や運営組織体制づくり、事業報告書作成支援、労務・登記に関するアドバイスをした。

(主な実績)

- NPO 法人猪名川つながり創造研究所(猪名川)： 人権のまちづくり活動を行う NPO

1.2. 団体運営・マネジメント支援・組織基盤整備・認定 NPO 取得支援

事業企画の立案や継続、運営体制のあり方についてのアドバイス、NPO 関連の制度や事例、助成金等の情報提供、広報の相談支援、人材のコーディネートを実施した。

(主な実績)

- NPO 法人さわやか北摂・さわやか千の里(川西市)：認定 NPO 取得支援・会議支援
- 認定 NPO 法人まなびと(神戸市)：マネジメント支援、放課後児童クラブの運営支援
- 神戸市ふれあいのまちづくり協議会支援： 有馬地区
- 長尾児童館(神戸市社会福祉協議会運営：神戸市) 運営相談
- 神戸市認定 NPO 取得支援事業(受託・ひょうごコミュニティ財団)へのアドバイザー派遣

1.3. 団体のバックヤード(事務機能)支援

NPO の事務作業を一部または全部代行(業務受託)して実施している。

(主な実績)

- NPO 法人三田市手をつなぐ育成会： 会計事務および請求事務全般
- NPO 法人歴史文化財ネットワークさんだ： 会計および事務全般
- さんだ楽語協会： 事務全般の支援

2. 市民活動に資するネットワーク形成事業（収益 '19 : 343 千円、'20 : 100 千円）

2.1. まちなか交流企画

(1) まちの読書会

奇数月 1 回、全 6 回開催。書籍に関連するテーマにおいて、自身の身の回りで起きていることとリンクさせながら、まちのこれからについて考えた。事務局だけでなく参加者から書籍・著者の提案をいただくことが定例化し、より多様なジャンルが実施できている。

(実施状況)

回	実施日	書籍名(出版年)	著者	参加者数
④⑥	2020 年 10 月 3 日	地方議員は必要か ～3 万 2 千人の大アンケート	NHK スペシャル取材班	5 人
④⑦	2020 年 11 月 21 日	人生が変わるホ・オポノポノの教え	J・ヴィターリ	5 人
④⑧	2021 年 1 月 30 日	シベリア抑留 ～スターリン独裁下、「収容所群島」の実像～	富田 武	5 人
④⑨	2021 年 3 月 20 日	心の傷を癒やすということ	安 克昌	5 人
⑤⑩	2021 年 5 月 15 日 → 6 月 19 日延期	ボクはやっと認知症のことがわかった ～自らも 認知症になった専門医が、日本人に伝えたい遺言	長谷川和夫	5 人
51	2021 年 7 月 23 日	新作らくごの舞台裏	小佐田定雄	6 人

2.2. 子ども支援者連絡会

さまざまなテーマで子ども支援に携わる支援者同士がゆるやかにつながり、情報交換や課題解決に向けた話をするネットワーク会議を定期的に運営している。今期は、夏～冬にかけて 2 回実施した。現在、登録が 21 名で、平均参加者数が 13 名となっている。

2.3. シェアオフィス

ほんまち事務所を他団体とシェアしその家賃収益を計上。三田市手をつなぐ育成会が入居している。

2.4. 三田 NPO 連絡協議会 / 2.5. 遺贈資源仲介

今期の実施はなし

3. 市民活動に資する人材育成事業（収益 '19 : 134 千円、'20 : 48 千円）

3.1. 自主セミナー開催

(1) NPO スキルアップセミナー 【ひょうごボランティア基金助成事業】

NPO 法人を対象に、組織運営に必要な情報やスキルを提供することを目的に開催した。

テーマ	NPO ワーカーのための、 はじめてのアンガーマネジメント	「健康経営」の視点から見た、 NPO の労務体制見直しセミナー
実施日	2020 年 11 月 26 日(木)15:00-17:00	2020 年 12 月 10 日(木)15:00-17:00
会場	三田市さんだ市民センター 2F 会議室	三田市まちづくり協働センター 講座室 オンライン(zoom を使用) 併用
内容	アンガーマネジメントの基本を学び、「怒りの感情」やストレスとの付き合い方を考えた。	健康経営の仕組みを解説いただき、自団体の取り組みのセルフチェックを行った。
講師	三谷文夫さん(社会保険労務士、産業カウンセラー)	三谷文夫さん(社会保険労務士、産業カウンセラー)
参加数	4 法人・団体／5 人	2 法人・団体／6 人

3.2. 講師派遣

実施日	内容	主催者	派遣者
2020 年 8 月 30 日(日) 15:00-17:00	子どもの居場所づくりのはじめかた(スタッフ研修)	NPO 法人 みらぼて	大島
2020 年 9 月 30 日(水) 10:00-12:00	地域たすけあい活動の始め方、関わり方 (ファシリテーター派遣)	NPO 法人さわやか北摂	大島
2020 年 10 月 23 日(火) 15:00-16:30	「NPO・NGO 論」ゲストスピーカー まちづくりを担う人、支える人、つなぐ人～NPO の多様な広がりと「つながり」がもたらす可能性	甲南大学 帯谷博明研究室	大島
2020 年 11 月 6 日(水) 19:00-20:30	あなたのアイデンティティーってなに？ 【本田文代】	三田市人権を考える 会 三田小地域部会	本田
2020 年 11 月 25 日(水) 11:10-12:40	「基礎演習1(長谷川)」ゲストスピーカー NPO とまちづくり～NPO の多様な広がり と「つながり」がもたらす可能性	関西学院大学 総合政策学部	大島
2020 年 12 月 3 日(木) 13:30-15:30	ひょうご中間支援ネットワーク 事例報告	ひょうご中間支援 ネットワーク	大島
2021 年 2 月 22 日(月) 17:30-18:30	あなたの『居場所』はどんなところ？ ～私の大切なサードプレイスを持とう～	県立有馬高校 定時制	大島

3.3. 委託セミナー開催 3.4. 市民の「やりたい！」を支援する人材インキュベーション事業

今期の実施はなし。また、三田市立八景中学校「がんばりタイム」への数学指導員派遣は終了した。

4. 市民活動に関する情報発信事業（収益 '19 : 0 千円、'20 : 0 千円）

4.1. メールニュース発行

主に毎月 1～2 回メールニュースを配信。主催事業の案内に加え、助成金情報、地域イベント情報を無料で掲載している。現在 217 人に直接送付（前期末比 1 人増）。地域イベント情報は、当団体のボランティアである新納晃重さん、井上義則さんが、毎回文字入力してくださっている。2021年春より発行方法の見直しをしており、現在調整中。

なお、当団体の活動の情報発信は、以下のツール活用して行っている。

ホームページは、井上義則さんが情報更新や構築の支援に携わってくださっている。

- 団体に関する情報

ホームページ

<https://batotsunagari.net/>



Facebook

<https://www.facebook.com/batotsunagari/>



Twitter

<https://twitter.com/batotsunagari>



三田まちの寺子屋「まなびあ」Facebook

<https://www.facebook.com/sanda.manavia/>



北神日本語教室 Facebook

<https://www.facebook.com/hokushinnihongokyoushitsu/>



5. まちづくりに資する地域情報化事業（収益 '19 : 0 千円、'20 : 20 千円）

5.1. オンライン会議の支援

zoom を中心としたオンライン会議支援のニーズがあったため、相談支援や講師派遣を行った。

実施日	内容	主催者
2021年7月19日(月) 10:00-12:00	はじめてのオンライン会議～WEBex を使ってみよう(同内容を2回連続で実施)	NPO 法人三田市手をつなぐ育成会

6. まちづくりに資するコーディネート事業（収益 '19：573 千円、'20:717 千円）

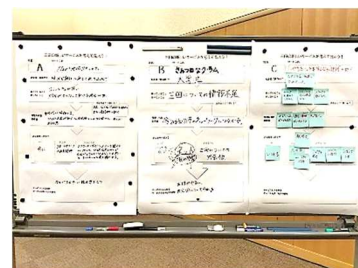
6.1. 大学生のまちづくり参加促進事業

関西学院大学総合政策学部「都市政策演習 2」の演習に協力。20 人の学生に対し、「対話のまちづくり」がテーマの演習を展開。「みんなでまちの未来を話そう、考えよう」と題した企画を実施。

テーマ	①学生と市民の交流の きっかけづくりを考えよう！！	②三田市の魅力は何だろう？？ 三田おすすめ●●選を作ろう！
実施日	2021 年7月 4 日(日)10:30-12:30	2021 年7月 4 日(日)10:30-12:30
参加数	11 人+学生 5 人	9 人+学生 5 人

テーマ	③あつまれ三田市民！ 語ろう、三田のこれから！！	②三田の新しいマツリゴトを 企画してみよう！！
実施日	2021 年7月 4 日(日)14:30-16:30	2021 年7月 4 日(日)14:30-16:30
参加数	10 人+学生 5 人	10 人+学生 5 人

（当日の様子）



6.2. 在住外国人支援を通したまちづくり支援事業

【2019年神戸市北区地域提案型活動助成／兵庫県国際交流協会居場所づくり事業助成金事業】

①地域日本語教室「北神日本語教室」運営（コーディネーター： 本田文代）

在住外国人区民が生活や働くうえで必要な日本語を習得できるよう、養成講座を受講した日本語ボランティアが1対1で教える地域日本語教室を、2019年12月に開設。日本語のみならず、暮らしにまつわる生活相談や文化、社会ルールなども一緒に学びあっている。

活動の様子は、コーディネーターが Facebook ページにて報告・発信している。



日 時 毎週水曜日 18:30～20:00

場 所 北神区文化センター会議室(神戸電鉄岡場駅徒歩5分)

参加者

- ・ 外国人登録者： 17名(うち継続参加者10名)
- ・ 参加者出身国： 中国、ジャマイカ、ベトナム、南アフリカ、ボリビア、ネパール
- ・ 参加者の背景： 技術者、技能実習生、介護実習生、家族滞在、日本人の配偶者など
- ・ 日本語ボランティア： 有資格者1名、日本語ボランティア養成講座修了者18名

感染対策(検温、マスク、アルコール消毒、フェイスシールド着用)を講じながら対面による活動を実施した。緊急事態宣言中、外国人は情報弱者になりマスクを購入できるところ、コロナに感染した際の連絡手順の理解不足などがあった。そこで、行政からの情報提供を行うとともに、看護師資格をもつ日本語ボランティアから感染予防のための正しい手洗いの実践なども行った。日本語支援活動も外国人学習者の要望に沿ったものを各ボランティアが工夫しながら行い、外国人学習者の努力もあり日本語能力試験N2(1名)、N3(1名)の合格も吉報となった。



仕事に出てくる言葉を学び中



みんな仲良く、和気あいあいに行っています

②日本語ボランティアブラッシュアップ研修

日本語ボランティアがより良い活動をおこなうためのブラッシュアップ講座実施。日本語教授法や教授法の助言を講師より受ける。また日本語ボランティアとして学習者としてののかかわり方も学んだ。

日 時： 2020年9月30日、2020年11月18日、2021年3月1日

(いずれも水曜日 18:30-20:30)

場所： 北神区文化センター会議室(神戸電鉄岡場駅徒歩5分)

参加者数： 日本語ボランティア 計42名

講師： 尾形 文 さん

(公益財団法人神戸国際コミュニティセンター

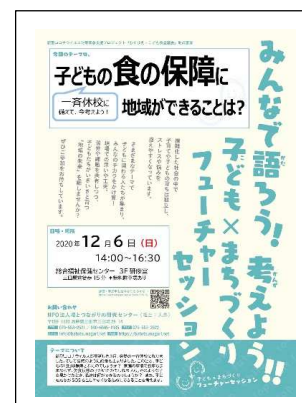
地域日本語教育総合的な体制づくり推進事業総括コーディネーター)

6.3. 子ども×まちづくりフューチャーセッション

【こども食堂支援センターむすびえ 助成事業】

地域活動をしている人・これから始めようと考えている人を対象に、子どもに関するテーマでの対話の場を行い、課題を共有し、仲間づくりを行い、活動との出会いを作り出すことを目的に開催した。

今期は、コロナ禍での一斉休校の経験を踏まえ、子ども・家族にどのような食糧支援ができるかを考える会を開催。7.5.フードシェアリングの企画の実現につながった。



回	実施日	内容	参加者
①	2020年12月6日(日) 14:00~16:30	子どもの食の保障に地域ができることは? ～一斉休校に備えて、今考えよう	8名

6.4. 夏まつり(三田まつり)/冬まつり(あきんどまつり)での店頭販売

コロナ禍で三田まつり・あきんどまつりともに中止となった。あきんどまつりは開催1週間前
の中止決定の連絡があり、準備を進めていた子どもたちから残念そうな声があがっていた。

6.5. まちの 10 年後を考えるワークショップ開催

大原桂木ふれあいのまちづくり協議会(神戸市北区)からの依頼で、まちびらき後 30 年のニュータウンのこれからを考えるワークショップを開催。協議会の中から有志約 15 人が参加し、毎月第 3 日曜日の定例会後に検討会を実施してきた。

実施日	テーマ	主な話題
第 1 回 8 月 30 日	この地域をどう思う？	助けて！と言ったら助けてくれる住民がここにはいる。 まちのニーズは「交流」から変わってきたのでは？ 住民の主体性が生まれるには？
第 2 回 9 月 20 日	「住民主体のまちづくり」とはなにか	継続は大事。関わり続けることで、住民の受援力も変化。「ふれあい」が主体性に影響。見える化がまちに必要。キーワードは、「共通の話題」・「双方向性のコミュニケーションの場」・「達成感」。
第 3 回 10 月 18 日	ふれあい活動を促進するには？	まちの中の「共通の話題」を考える(防犯・環境・近所付き合い)。困っている人が SOS を出すのが当たり前のまちになるには？ 困りごとが集まるには？ ふれあい＝交流＝出会い＝外に出るきっかけをどうやって作るか？
第 4 回 11 月 15 日	まちの今を考える【拡大】	作業部会のメンバー以外も参加し、以下のテーマに分かれてアイデア出しを行なった。①まちの魅力を考える、②わがまちニュースが住民に届くには、③助け合いボランティアを増やすには、④子どもと教育～住民参画をどう増やす、⑤高齢者の移動をどう支えるか
第 5 回 12 月 20 日	北区の人口減少未来図と、自治会・ふれまち協の役割について	まちの人口減少に伴い、民生委員・ちよボラをはじめとした「地域の支え手」をどう増やすか？ 自治会・ふれまち協はそれぞれなにをする団体か、特徴を整理。また、「まちの中で行われていること」の洗い出しを行なった
第 6 回 1 月 17 日	地縁組織の意義と今後の役割を考える	「持続可能なまち」に必要な要素について議論を行った。 *第 7 回(2 月 21 日)は緊急事態宣言に伴い休会

6.6. 安心して声を発せられる地域づくり支援事業

【公益財団法人信頼資本財団 休眠預金を活用した新型コロナウイルス対応緊急支援助成事業】

新型コロナウイルス感染拡大によって、「新しい生活様式」を人々に求めることになるなど、社会にこれまでにない変化をもたらしており、結果的に生活上の困難を抱える人々が増え、各種支援を準備している行政においても対応が困難な社会的課題が増えている。

このような中で、三田市・神戸市北神区・西宮北部で、誰にも相談できずに声を出せずに苦しんでいる子ども・若者や家庭の声を拾うことができる地域住民の「寄り添い人」を育成し、彼らの活動拠点となる学習支援・子ども食堂などの「居場所」の立ち上げや基盤強化支援を行い、既存の団体や専門家など子ども支援に携わる多職種連携のネットワークを作ること、困っている人が安心して話せる地域住民と出会い「誰かを頼ってもいい」と感じてもらえるような経験をまちの中に多様に増やすことを目的に実施すると同時に、困りごとと出会い、専門機関につなぐためのアウトリーチ体制づくりを行うことを目的に、助成事業に申請したところ、5 月に採択された。

2021 年 7 月までは雇用など体制の整備や地域の現状把握に取り組んだ。

7. まちづくりに資する子ども・若者支援事業（収益 '20：109 千円 ＊定款変更により新設）

7.1. 三田まちの寺子屋「まなびあ」の運営

地域の子どもの地域で支える仕組みづくりを目指し、主に生活困窮家庭・ひとり親家庭の子どもや不登校児者の学校外教育の提供を目的に、地域住民と協働で 2013 年 8 月に立ち上げた。子どもにとっての「サードプレイス」となるよう、子どもの声を聴き、寄り添いながら自分のやりたいことに取り組む居場所にテーマを広げ、運営している。

日 時： 毎週水曜日・金曜日 15:30～18:30(利用料:無料)

場 所： 県民交流広場「三田じばやんクラブ」

子ども参加者： 小学生～高校卒業生まで、おおよそ5人～8人／回



子どもたちの支援を行う「まなびサポーター」には、中嶋和哉さんをはじめ三田在住の 20-40 代メンバーに加え、ボランティアサークル「SSV 関西学院」のメンバーが参加している。定例会を開催(不定期)し、情報共有や対応を議論している。

日頃の様子は Facebook でも発信している。



友達が友達を連れて参加するなど新規利用も増えているが、初期利用世代が高校生・専門学校生になるなど、子どもたちの入れ替わりも多くなってきた。まなびあの枠を超えて、地域活動に子どもたちが参加できるような働きかけをいっそう行っていきたい。また、この1年では、発達障害を持つ子どもや家庭に居場所のない子、学校に行きづらい子の参加もあり、いっそう丁寧な支援を考える必要が出てきた。スタッフ研修などを通して、子どもの立場に立った関わり方を模索したい。

(これまで助成金をいただいた団体)

独立行政法人福祉医療機構(WAM) (2013 年度)

公益財団法人ベネッセこども基金 (2014 年度～2016年度)

公益財団法人キリン福祉財団 (2019 年度)

gooddo 社によるクリック募金 (2018 年 1 月終了、現在は楽天アフィリエイトによる支援)

その他、地域からの資金(寄付金、協賛金等)を集めて運営している。

7.2. 子ども食堂「まかないキッチン」【NPO 法人こども食堂支援センターむすびえ助成事業】

地域住民と協働して、2017年より子ども食堂に取り組んでいる。もともとは、大東真弓さん(現法人理事)があそびの広場の活動で子どもたちと一緒に料理を作って食べていたところ、日頃話さないようなことが子どもたちの会話の中からたくさん出てきたことを承けて、「子どもたちが安心して思いを吐き出せる場を作ろう」という思いの元で運営している。

日 時： 毎月最終金曜日 18:00-20:00 *緊急事態宣言期間は開催せず

場 所： 県民交流広場「三田じばやんクラブ」

参 加 費： 大人200円、子ども100円(カレー、サラダ、その他寄付いただいたもの)

参 加 者： 子ども約20人、保護者が約5人、定期的に参加している。

コロナ以前は高齢者も約10人参加していた。

スタッフ： 約10人。調理担当のスタッフもいれば、子どもの相手専門のスタッフもいるなど、それぞれの得意とする内容で活動に携わっており、「田舎の法事」のような場の雰囲気になっている。



7.3. 子どもの食の自立支援プロジェクト「チャレンジキッチン & Taro's Kitchen」

【NPO 法人こども食堂支援センターむすびえ助成事業】

緊急事態宣言を受けて調理ボランティアの参加が NG となったこと、また、参加する子どもたちが「食べるだけ」で終わらず自ら作ってふるまう立場に立つ経験が必要と考え、集まった食材を中心に子どもたちが自ら献立を考えて助け合いながら作る料理教室「チャレンジキッチン」を、まかないキッチンの代替企画として開催した。子ども自身がリクエストするメニューの食材を大人が準備し、子どもたちと大学生ボランティアが協力して調理を行うようにしている。

また、困窮世帯の子自身が自らの食事を作れるようになるために、1対1で支援を行う「Taro's Kitchen」も、昨年度より継続して実施。元相談支援員の狩野和代さんにご協力いただき、事務所で料理教室を行っている(月1, 2回程度)。献立決めから食材購入、調理、配膳、片付けまでを一緒に取り組んでいただき、その過程で「つぶやき」を多く拾うことでニーズを拾い上げ、自立に向けた支援プログラムを検討してきた。

7.4.「まなびサタデースクール」開催

(1)はじめてのプログラミング

子どもたちのプログラミング的思考力(仮説検証型思考法)の向上を目的として定期的開催。子どもの成長を願うメンター(ボランティア)からのさまざまなアドバイスもあり、より興味深い作品を子どもたちは作っている。

※参加者の作品アトリエ:<https://scratch.mit.edu/studios/1741552/>

実施日	参加人数
2020年8月8日	3人
2020年9月5日	2人
2020年11月14日	7人
2021年1月23日	3人
2021年6月12日	1人
2021年7月10日	3人

また、初心者向けの体験企画も開催。年に2回開催しており、秋開催(9月5日&12日:9人)と春開催(3月28日と4月4日:4人)を実施。



(2)君だけのものづくり ～秋の植物編

秋の草花や落ち葉、小枝などを使い、自身のひらめきや創造力を生かした自然工作の機会を提供することで、5感を使って自然に触れることの楽しさを実感するとともに、自分の住む三田の自然の豊かさを感じることを目的に開催した。



日 時: 2020年11月7日(日)11:30~15:30

場 所: 有馬富士公園 パークセンター

企画者: サチダ・リーナさん(関西学院大学卒業生)

参加者: 3名 (ボランティアスタッフ5名) *神戸新聞取材あり



7.5. フードシェアリング事業 【NPO 法人子ども食堂支援センターむすびえ助成事業】

新型コロナをきっかけに、生活に困っている人がいっそう困りごとを抱えていることを想定し、食料配布企画(フードパントリー)を実施。2020年5月頃に市内で行われていた、公共施設における待受型の食料配布方法では困窮世帯は取りにいけないのではないかと考え、「より身近な場所で」のコンセプトをたてて、市内の県営住宅自治会と連携する方法で実施した。

日 時： 2021年3月28日(日)10:30-11:30 (天候： 雨)

場 所： 市内県営住宅 敷地内広場 (テントを立てて対応)

食料調達： 以下のものを30セット準備 → 16 世帯が受取

- 米(3合:まかないキッチン使用分)、冷凍フランクフルト(神戸物産(業務スーパー)提供・市社協紹介)
- カップ麺(寄付)、お菓子(寄付)、その他不足分を買い足し
- マスク(社協提供)、アンケート(4世帯から回答)

7.6. 長尾児童館「子どもヘルパー支援事業」～子どものための児童館と NPO の協働事業

神戸市北区にある長尾児童館のプロジェクト「子どもヘルパー」を支援。子どもヘルパーは、農村地域にある児童館の特性を活かし、ニュータウンにある大規模小学校児童の社会貢献プロジェクトで、①地域の伝統文化の伝承(地域行事体験など)、②多世代交流(未就学児向け、高齢者向けの企画)に加えて、③子どもたちが「こんなことをやりたい!」を実現するプロジェクトとして取り組んでいる。子どもたちの話し合い活動のファシリテーター役や子どもたちの取り組みの補助を行うために、児童館と子どもたちの取り組みを側面的に支援する大学生を派遣している。



7.7. 不登校児および家族支援のあり方研究会 今期の実施はなし

8. 市民活動及びまちづくりに関する調査研究事業（収益'19：736 千円、'20：904 千円）

8.1. ユースワーク研究会【ひょうごボランティア基金助成事業】

市民レベルでの若者支援者の育成、および、一般市民に対する若者の課題についての問題意識を啓発することを目的に、地域住民と学生、NPO、学校、公的機関とが連携して地域の子ども・若者を地域の大人が支えるための「地域連携型若者支援プログラム」の開発を目標に研究会を開催した。2020 年度は、新型コロナウイルスによって一斉休校が行われるなど混乱した情勢の中で、子ども・若者支援団体がどのような動きをしたのかをレポートした冊子を作成。「子どもの声を聴くためのハンドブック～新型コロナウイルスそのとき「現場」はどう動いたか」として発行した。

なお、冊子はホームページの「法人について」－「発行物」から無料でダウンロードできる。

詳細：https://batotsunagari.net/youthwork_handbook2021/



【コーディネーター】小倉祐輔さん・NPO 法人スマイルひろば(尼崎市)

【メンバー】松木 亮さん(豊中 BBS 代表)

尾崎知弥さん(茨城町地域おこし協力隊)

矢野良晃さん(NPO 法人ふぉーらいふ 副理事長)

藤井真人さん(宝塚市社会福祉協議会)

内田扶喜子さん(尼崎市役所 CSW)

山本康子さん(尼崎市役所 CSW)

狩野和代さん(元・丹波篠山市 相談員)

8.2. NPO 事務支援のあり方研究会【ひょうごボランティア基金助成事業】

～非都市部 NPO の事務力向上に向けた実態調査及びスタッフのキャリア支援モデル構築事業

人材が必ずしも十分と言えない非都市部で活動する NPO 法人を対象に、事務力の現状や事務コストへの認識、担当者の研修スキームなど「NPO 法人の事務力の実態」を調査し、NPO 法人の事務局スキルアップに必要な支援メニュー「ウラカタ支援プログラム」を開発することを目的に実施。2020 年度は県内の非都市部に拠点を置く NPO 法人およそ 400 に調査票を送付し、実態を整理した。

【研究アドバイザー】

森 建輔さん(バックオフィス業務オーガナイザー)

壺井祐輔さん(NPO 法人北播磨市民活動支援センター 事務局)

北内はるかさん(NPO 法人岡山 NPO センター 事務局)

8.3. まちなか「資源循環」促進支援事業 ～とくに、遺贈資源仲介研究

相続財産を社会貢献に使いたいと考えている人向けに、専門家や活動団体を適切につなぎ方に関する研究・情報発信を行った。2018 年度に、遺贈寄付の一部を当団体に寄付いただいた案件が1件あったことから立ち上げたが、具体的なプロジェクト化には至っていない。

8.4. 居場所研究会

今期は実施なし

8.5. 研究受託

8.6. 市民調査支援

■ 管理および法人運営部門

1. 会員の状況 (収益 '19 : 105 千円、'20 : 105 千円)

正会員は、期初時点から1名減で 17 名となっている。

賛助会員は、北神日本語教室のボランティアが賛助会員として加入し、18 名となっている。

2. 寄附の状況 (収益 '19 : 797 千円、'20 : 129 千円)

今期はコロナ禍への対応を含め事業に集中していたため、寄付募集の取り組みに十分に取組めなかった。今後の活動に充ててほしいと活動謝金をそのまま寄付してくださった方も多くいらっしゃり、このようなお気持ちに応えた取り組みを進めていきたい。また、新規事業に合わせて寄付募集を行うことも検討し、支援の広がりをいっそう求めていきたい。

3. 会議に関する事項

総会および理事会を下記の通り実施。理事会ではメーリングリストで情報共有・意見交換を適宜行っている。

	日 時	会場	備 考
総 会	2020 年 10 月 25 日	三田ほんまち交流館「縁」	通常総会
理 事 会	2020 年 9 月 3 日	ZOOM	
	2020 年 10 月 23 日	ZOOM	
	2020 年 11 月 20 日	ZOOM	
	2021 年 1 月 15 日	ZOOM	
	2021 年 4 月 10 日	ZOOM	
	2021 年 5 月 15 日	ZOOM	

4. 職員体制

休眠預金事業による予算を活用し、職員体制を整えて事業に取り組んでいる。

事務局長・統括	大島 一晃（法人理事、週5日）
国際事業部(外国人支援チーム)	本田 文代（法人正会員、週1日） ドウ・シ・ハ・エン（週3日）
子ども・若者支援コーディネーター	小宮 真希（週5日） 島津 恵美（週5日）
管理部門・事務局	辻本 倫（週1日）

また、当法人はプロジェクトごとに多くのボランティアの参加・協力によって運営されている。
特に活動の基盤を支えてくださっているボランティアを、感謝の気持ちを込めて紹介する。

情報発信部門(ホームページ管理)	井上 義則（法人正会員）
// （記事入力、その他全般）	新納 晃重
子ども・若者支援（まなびあ）	中嶋 和哉

5. 他団体との連携・協力

以下の組織・ネットワークに所属し、適宜情報交換や事業連携を行っている。

- | | |
|-----------------|-------------------------------|
| - 車瀬橋商店街 | - 三田小学校コミュニティスクール運営協議会 運営委員 |
| - 三田本町通商店街(準会員) | - (社福)三田市社会福祉協議会 評議委員(～21年6月) |
| - 三田市商工会 | - 大阪ボランティア協会 情報誌「Volo」編集委員 |
| - ひょうご子育てコミュニティ | - コープともしびボランティア振興財団 運営委員 |
| - ひょうご市民活動協議会 | - 三田市地域福祉審議会 委員 |
| - 阪神北中間支援ネットワーク | - 三田市子ども審議会 委員 |
| - 三田地区県民交流広場 | - 神戸市認定 NPO 取得支援アドバイザー |
| - 「じばやん倶楽部」運営委員 | - 神戸市 NPO 活動支援アドバイザー |

■ これまでの業績推移

	収益	経常収支差額	主な事業等
2006 年度	6,192,761	△960,814	市民活動推進プラザ運営
2007 年度	9,339,984	137,083	地域 SNS「さんでい」立ち上げ
2008 年度	17,329,561	△347,523	総務省「地方の元気再生事業」
2009 年度	17,053,023	66,850	
2010 年度	49,197,634	△2,257,061	総務省「地域 ICT 利活用広域連携事業」。 他、3 つの緊急雇用事業
2011 年度	20,208,730	△961,253	市民活動推進プラザ、受託終了。ほんまち移転
2012 年度	5,412,920	△1,222,338	ひょうごコミュニティ財団設立支援
2013 年度	4,823,671	407,254	居場所研究会、まなびあ設立
2014 年度	3,470,315	630,174	中堅スタッフ育成、まなびサタデースクール
2015 年度	4,228,054	717,566	気づきの事例検討会
2016 年度	4,180,558	116,841	対話の場づくり・フューチャーセッション、がんばりタイム
2017 年度	4,134,888	313,566	学習支援ハンドブック、遺贈資源仲介、都市政策演習
2018 年度	5,087,612	1,246,810	対話の場づくりハンドブック・ユースワーク研究会
2019 年度	6,480,788	1,720,460	日本語ボランティア養成講座、北神日本語教室 長尾児童館支援、緊急事態宣言下の支援活動
2020 年度	7,486,879	579,798	子どもの声を聴くためのハンドブック、NPO 事務力 アップ支援事業、休眠預金を活用した事業

以上